

「仙南復興ソーシャルビジネス・ギャザリング」(名取市開催)

(1) 開催概要

■タイトル

仙南復興ソーシャルビジネス・ギャザリング
～地域から未来の東北・日本を生み出す～

■テーマ

【共通テーマ】 持続可能な未来のために私たちが今一緒に何をすべきか

【地域テーマ】 ソーシャルビジネス×アグリビジネスで東北復興

■日時、会場

2014年11月16日(日) 12:00～15:00

ロクファームアタラタ

■主催

一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク

■共催

東北ソーシャルビジネス推進協議会、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO
センター、特定非営利活動法人ガーネットみやぎ、みやぎ連携復興センター、
みやぎ SBCB 中間支援会議

■後援

経済産業省、宮城県、名取市、日本政策金融公庫 東北広域営業推進室、河北新
報社

<開催実績>

■参加者 76名

(2) 実施内容

<ステージプログラム>

1) 当日プログラム

12:00～ 挨拶、趣旨説明

○主催挨拶、趣旨説明

一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事・事務局長
町野弘明

○共催挨拶

東北ソーシャルビジネス推進協議会 会長、宮城大学事業構想学部 教授
風見正三

○来賓挨拶

・名取市 市長代理：名取市生活経済部 熊谷 克彦氏

12:30～ 基調講演 「地域資源を全国ブランドにするには」

・登壇者

株式会社いろどり 代表取締役

一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 理事 横石 知二氏

13:30～ ワークショップ① 「基調講演を聞いての気づきと聞いてみたいこと」

・コーディネーター

東北ソーシャルビジネス推進協議会事務局長

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター 佐々木 秀之氏

13:50～ トークセッション 「ソーシャルビジネス×アグリビジネスで東北復興」

・登壇者

横石 知二氏

風見 正三氏

15:00～ ワークショップ②

「共通テーマ：持続可能な未来のために私たちが今一緒に何をすべきか」

15:50～ 試食会&交流会 「宮城の6次産業を美味しく学ぶ」

・解説

一般社団法人東北復興プロジェクト 理事

ロクファームアタラタプロデューサー

株式会社ファミリア 代表取締役 島田 昌幸 氏

16:50～ 総評

横石 知二氏

風見 正三氏

2) プログラム内容

① 基調講演

「地域資源を全国ブランドにするには」

株式会社いろどり 代表取締役

一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク理事 横石 知二氏

■ 要旨

□ 「株式会社いろどり」の誕生から

これまで

- ・ 36年前に上勝に来た。田舎の慣習である、「住民が負け組と感じている」「いつも同じ人が集まる」「人を批判する」「最初からあきらめている」「男性中心」を脱却しなければと思ひ行動に移した。「女性」の仕事作りが大切だと気づく。



- ・ そのとききめたことは、地域で仕事をつくること。そのためには「信用を得る」、「愚痴を言わない」、「所得をあげる」の3つを目標に自分にできることから始めた。
- ・ 高齢者や女性の仕事はないかと考えていたところ、たまたま立ち寄った大阪のお店で食べる物より飾られている赤紅葉に感動し、上勝にもある、これはいけると直感した。
- ・ だが、葉っぱを売ることには抵抗がある人が多く、始めは4人からのスタートだった。出荷したが売れず。実際に使用している現場を知らないことに気づき、現場である料亭に通い大きなヒントをもらう。それからは、パンフレットを持って全国に売り込みに出かける。
- ・ 新たな戦略としてタブレットを導入する。ポイントは、関心があるもの、必要な要素だけに絞った小さな仕組みをつくる。見やすくわかりやすい、おもしろいシステムにすること。また、個人の売上げが分かることで評価にもつながり、やる気が出る。

□ 事業を通して分かったこと、伝えたいこと

- ・ ひとりひとりの役割作りが重要。人は誰でも主役になれる。出番、評価、自信を与えることで人間力が発揮できる。
- ・ 事業を成功させる、そして人と関わるには、ツボを知る事が大事。何をほめてもらいたいのか、気にしていることは何か、どんな価値観か、求めているツボは何かを知る。
- ・ 現場が何よりも大事である。現場に近いと信頼関係を築ける。

□地域づくりといろどりの地域での影響について

- ・いもどりを中心に地域がつながっている。(農林業、健康福祉、教育文化、環境保全、国土保全、商工サービス)
- ・全国から視察者が訪れ、交流人口が増加した。また植栽の効果は景観保全につながっている。

□今後の目標

- ・世界に誇れる美しい町に、災害を防ぐためにも荒れた山をいもどり山にしたい。

②ワークショップ①

「基調講演を聞いての気づきと聞いてみたいこと」

■登壇者

コーディネーター 東北ソーシャルビジネス推進協議会事務局長、
特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター 佐々木 秀之氏

■内容

会場の参加者が数人のグループに分かれ、話し合いながら基調講演を聞いての気づきと聞いてみたいことを付箋に記入後しボードに貼る。担当者がカテゴリー毎にグルーピングをする。



③トークセッション

「ソーシャルビジネス×アグリビジネスで東北復興」

■登壇者

横石 知二氏 風見 正三氏

■要旨

□具体的テーマの説明 (風見 正三氏)

- ・「東北の復興について」「共通テーマである、持続可能な未来のために私たちが今一緒に何をすべきかについて」を考える。

□ワークショップでの会場からの意見紹介 (風見 正三氏)

- ・「地域資源の活用見つけ方が分かった」、「ネットワークを作ることの大切さを感じた」、「横石さんの活動の原動力、パワーはどこからくるのか知りたい」、「一生現役、あきらめないこと、強い意志が大切だと思った」等の意見を紹介。

□横石さんの講演で感じたこと (風見 正三氏)



- ・横石さんの実績は、役割づくり、場づくり、つながりづくり、働いて元気になる仕組みづくりだ。

□横石さんへの質問（風見 正三氏）

Q：地域で信頼を得るには。

A：どんな人でもつきあうこと。どんな人でも意図をもっていることを知ること。

Q：東北の復興に関してどう思うか。

A：お金の活かし方がうまくいっていないのではないか。

上勝の経験から、お金を支援するだけではなく、自分たちで働いてお金を生み出す方向にすることが必要なのではないか。それぞれに役割を与えることが生きていく上で幸せを感じると思う。

□横石さんへの質問（会場より）

Q：地域でワークショップをやりたい。どのように声をかけていったらいいか。

A：現場はワークショップで自分が何を求めるのかわからない。わかりやすく、短く、身近に感じるように伝えなければわかってもらえない。抽象的なことは必要ではない。もっと現場にわかりやすいことをやっていく。

Q：もう少し事業を大きくしたいがどうしたらよいか。

A：大きくすることが幸せかどうかはわからない。身の丈にあった大きさが良いのではないか。大きくするのであれば、小さなことは気にしない開き直りが必要。地域に小さいビジネスが沢山あることもソーシャルビジネスの1つのありかた。

Q：一人で頑張っていくのは限界があるし辛い。これまでどんな経験があったか。

A：この人と一緒にやるのは楽しいと思われるようにしなければならぬ。何でも絵に描いたようにはいかない。足元のことを地域で、地域の人と一緒にやるのが大事。

□横石さんからの提案

- ・大学生がもっと深くインターンに入って、社員と同じように仕事をする時代。そういう場づくりをもっとするべきではないか。

→（風見）マッチング空間を作ることが大切。社会との関わりを持つ場づくりがまだまだ足りない。私たちがもっと取り組まなくてはいけない。

永続的に地域と個人が幸せに暮らせることがいかにできるか。お互いが共存しながら生きていく。大企業は大企業の、小さい企業は小さい企業の役割がある。



横石さんからのアドバイスを聞きたい。

→（横石）地域おこしは西日本の方が活発。東北はある面では豊かであることでプロデューサーが少ないのかもしれない。厳しい環境でなければ人はなかなか動かない。だが震災という大きな出来事があったその感覚が変わってきているのではないか。何を持って幸せを感じるのか。やはり役割作りが重要だと思う。

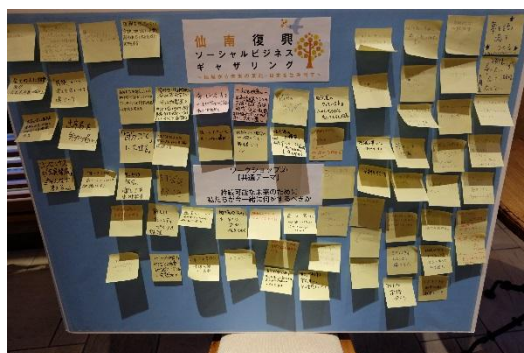
→（風見）地域づくりを通して感じるのは、それで地域の人が幸せになっているかということ。役割を奪われるほど辛いものはない。持続可能であることは、「変化に強いこと」も一つの要素。一人勝ちではなく横石さんのように、相思相愛であることがソーシャルビジネスには必要だと感じる。

④ワークショップ②

「共通テーマ：持続可能な未来のために私たちが今一緒に何をすべきか」

■内容

会場の参加者が数人のグループに分かれ、話し合いながら基調講演、トークセッションの内容をふまえ、付箋に記入後ボードに貼る。担当者がカテゴリー毎にグルーピングをする。



⑤試食会&交流会「宮城の6次産業を美味しく学ぶ」

■解説 一般社団法人東北復興プロジェクト 理事、
ロクファームアタラタプロデューサー、株式会社ファミリア 代表取締役
島田 昌幸 氏

■要旨

□ロクファームアタラタ事業紹介

- ・ロクファームアタラタは震災復興のために、民間事業者6名が集まって新たに作った事業。6名はそれぞれの専門家でありプロデューサーである。

レストランは来るものは拒まず、
去る者は追わずでやる気のある農
家さんの野菜を24時間体制で受
け付けている。

震災の経験から粉と水と火があればできる食べ物ということで、パン屋とそば屋をやっている。色々なテーマが凝縮した施設になって



いる。

この施設はプロセスコミュニケーションができないかに挑戦している。だからこの施設は未完成。色々なことを試しながら何十年後かに完成するようにしている。障がい者を雇用しているが、楽しく、嬉しく、もう1度来たいと思ってもらえば、そのことを打ち出す必要はない。パンフレットも2種類用意して、相手が何を求めているかによって使い分けている。

今回は、地元の食材を使った料理といろどりの葉っぱのコラボレーションをした。是非見て頂きたい。

□試食、交流

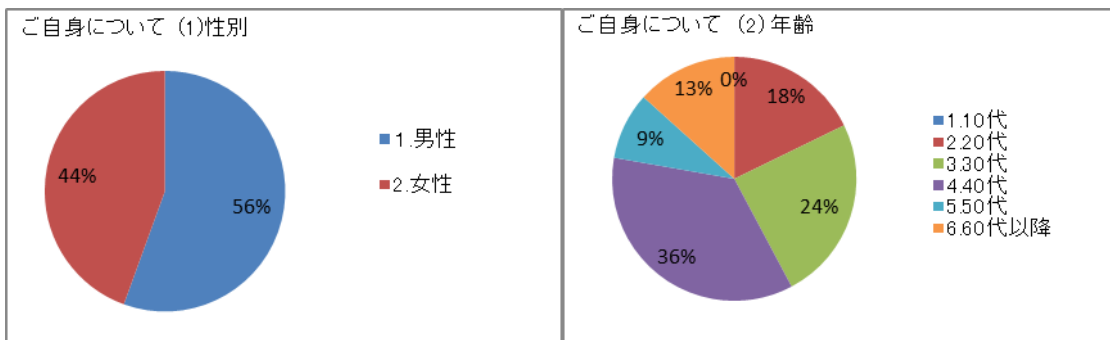
- ・レストランのビュッフェスペースを使い、どの食材がどのように調理され、いろどりの葉っぱがどのように使われているか、実際に料理を見て試食する。



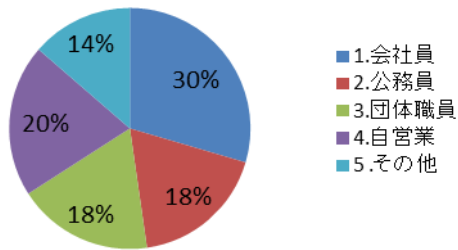
3) 成果

- ・講演では、地域で活躍するソーシャルビジネスのトップランナーの話を聞き、ソーシャルビジネスについてよく知らない人が、地域でビジネスをすることの苦勞や喜び、方法を知ることができたと思われる。
- ・トークセッションでは、基調講演の話を掘り下げ、更に深く会場との対話ができ、ソーシャルビジネスのヒントが得られたと思われる。
- ・ワークショップでは、会場の参加者が自分の今の課題と講演内容を照らし合わせ、何をすればよいかをそれぞれが感じることができたと思われる。
- ・試食&交流会では、地元のソーシャルビジネスを実践している生の話を聞け、地元での活動に活かせるとともに、実際の料理を見ることで農産物の六次化を実体験できたと思われる。

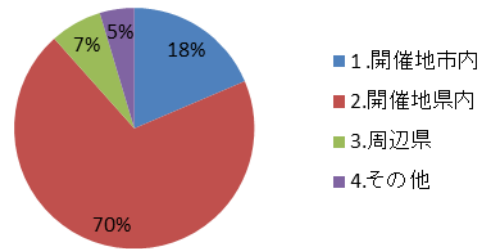
4) アンケート結果



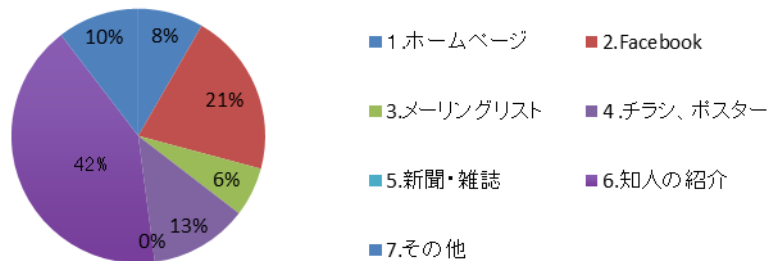
ご自身について(3) 職業



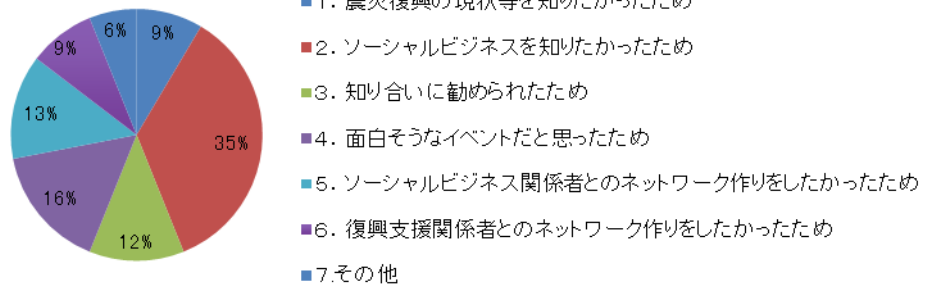
ご自身について(4) ご自宅または所属先地域



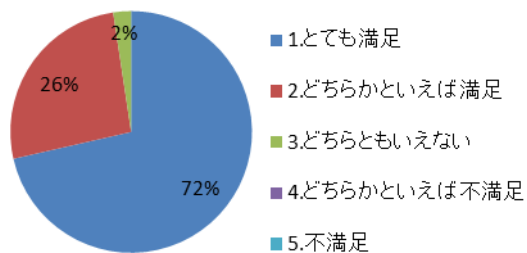
Q1.本イベントをどのように知りましたか？



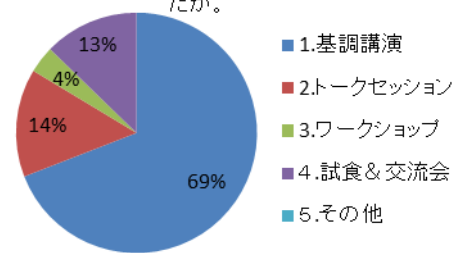
Q2. 本イベントに参加した目的は何ですか



Q3.本イベントの満足度を教えてください



Q4.本イベントの中で、何に一番興味を持ちましたか。



Q4 理由

1. 基調講演

- ・一人一人に役割があって、そのマッチングが大事だと気づいた。
- ・貴重な話を聞いて良かった。
- ・生のお話をお聞きしたかったから
- ・横石さんのSBに興味があったため 興味深い話満載でした ソーシャルビジネスは何ぞや？というのが知れた。
- ・目標を達成する為の努力、壁、問題の実例を聞く事ができた。
- ・内容がおもしろかった。
- ・今、自分たちがかかえている問題に筋道が見えた。
- ・横石さんの情熱に色々と気づかされました。
- ・横石さんの話がとても参考になりました。
- ・経験より共感ポイントが多かった。
- ・ご本人のお話から学ぶことが多いので。
- ・地域資源ビジネス、視点がとても学べました。
- ・ビジネスの難しさを実感できた。
- ・地域づくりに役立つ情報。
- ・住民がみな良い笑顔。笑顔がすてき。
- ・ICT活用と使う人の意識付け 勉強になりました
- ・現場を大切にしたら結果が今日までつながっているということが良くわかりました。
- ・横石さんの話が聞きたかったため。
- ・感動、社会関係資本そのものと感じたから。
- ・横石さんの具体的で分かりやすいお話に感銘を受けた。
- ・いどりのことは知っていたが、ここまで来るに至る苦勞など知らなかったことをきけたから。

2 トークセッション

- ・講演よりも深い事を聞けたから
- ・興味深い話満載でした。
- ・事業立ち上げの気づき、やる気、根気づくり、変化と継続性

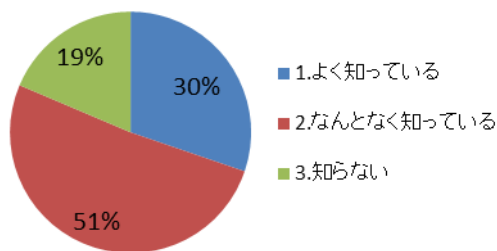
3 ワークショップ

- ・グループ同士の意見を出す事が重要だった。

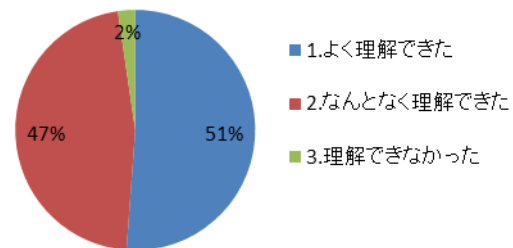
4 試食&交流会

- ・食材などの発見
- ・プレゼンで商品の背景がよくわかった。一点準備時間の為、最後まで居られないのが残念でした。

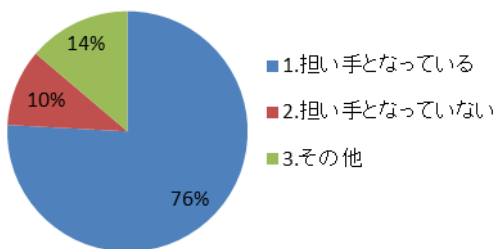
Q5.「ソーシャルビジネス」について知っていますか。



Q6.本イベントを通じて「ソーシャルビジネス」について理解できましたか。



Q7.ソーシャルビジネスは震災復興の担い手になっていると思いますか。



Q7 理由

1. 担い手となっている

- ・被災地には社会的問題がたくさんありその問題解決に取り込んでいるから。
- ・生きがいや場所をつくるきっかけになっている。
- ・行政が手をつけられないところをカバーするから。
- ・現在官民でもできないことに着手する為。
- ・少しずつではあるが被災地を支えている。
- ・被災者の近くにいる。
- ・お互いにとってうれしい事

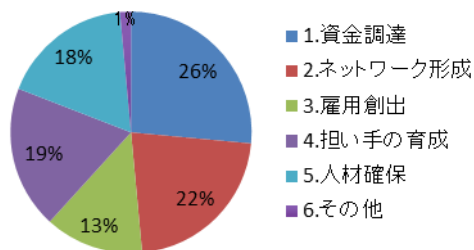
2. 担い手となっていない

- ・運営団体のイメージ不足、助成金依存

3. その他

- ・これからなっていくと思う
- ・具体的な形となっているかが分からないため
- ・よくわかりません。
- ・担い手になりつつあると思うが、もう少しスケールアウトが必要だと思う。

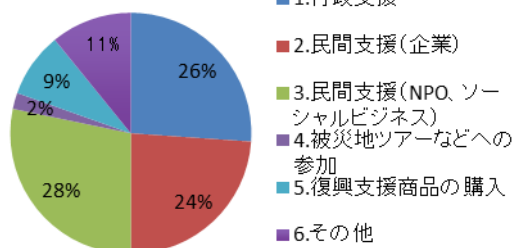
Q8. ソーシャルビジネスが震災復興の担い手となるための課題は何だと思いますか。



Q8 その他 具体的に

- ・販路

Q9. 現在被災地に必要な支援は何だと思いますか。



Q9 その他 具体的に

- ・つながり
- ・インフラと被災者の心のケア
- ・経営戦略についての情報が欲しいので行政でも民間でもいいので支援して頂きたい。

Q10. 既にソーシャルビジネスを行っている方また行う予定がある方においては、支障のない範囲で名称や事業内容をご記入下さい。

- ・新価値創造屋
- ・特定非営利活動法人OYAKODOふくしま
- ・農産物のブランド化、六次産業化
- ・花と緑を通じた事業展開

Q11. またソーシャルビジネスを行っている方は、現状の課題や行政、中間支援組織などに期待することをご記入下さい。

- ・アイデアを具体化する方策について知りたい。
- ・目指していますが、前に進む為の具体的な情報提供が欲しい。特にファンド等。
- ・こうした機会を増やしてほしい。

■本イベントに関するご意見やご要望を、ご自由にご記入ください。

- ・横石さんの話を聞いて、また世界が広がったような、良い刺激をうけた。
- ・3/15も見たいと思いました
- ・素晴らしい時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。
- ・それぞれやっている方同志のつながりを深める時間をもう少しとってほしいのかもしれない。
- ・楽しくポイントをつかむことができました。ありがとうございました。
- ・多くの人たちとお話が出来て良かったです。
- ・参加して良かったです。
- ・参加者も同じ立ち位置で参加でき、とても有意義であった。
- ・今後も本活動が継続されることを切望する。
- ・沢山のヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・仕事のコツをいただきました。
- ・オーディエンスと横石社長、風見先生との議論を聞きたかったです。
- ・内容的にはとても良かったと思いますが、時間が長いのがつらいです。
- ・開始が12時というのも無理があるのではないかと思います。

以上